

小学五年

国

語

解答と解説

1

問一	ウ	21
問二	1	
	ア	22
	2	
	笑い	
	い	
	なが	
	が	
	ら	23

問三		
な	見	ボ
り	て	ク
た	、	シ
か	少	ン
っ	し	グ
た	で	の
か	も	練
ら	前	習
。	向	を
	き	す
	な	る
	気	あ
	持	の
	ち	子
	に	を
		24
		25
		26
		27

問四	④	
	オ	
	⑤	28
	ウ	
	⑥	29
	イ	30
問五	ま	
	だ	
	幼	
	稚	
	園	31

問六	エ	32
問七	ウ	
	問八	33
	ア	
問九	イ	34
	問十	
	エ	35
		36

2

問一	イ	37
問二	A	
	自	
	然	
	現	
	象	
	B	(完巻)
	自	
	然	
	で	
	あ	
	る	38

問三	エ	39
問四	咄	
	嗟	
	に	
	多	
	数	40
問五	ウ	
	問六	41
	冷	
	静	
問七	イ	42
		43

⑤		④		③							
⑥	①	①	①	①	問九	問八					
粉末	経歴	キ	才	才	機	C	A				
⑦	②	②	②	②	械	均	考				
⑧	③	③	③	③	化	質	え				
集団	輸血	ウ	エ	エ	さ	な	る				
⑨	④	④	④	④	れ	サ	能				
混	公務	工	キ	キ	問十	丨	力				
⑩	⑤	⑤	⑤	⑤	ウ	B	考				
寄	墓石	力	イ	イ		え	な				
⑪	⑥					い	よ				
育	駅弁										
⑫	⑦										
	⑧										
	⑨										
	⑩										
	⑪										
	⑫										
	⑬										
	⑭										
	⑮										
	⑯										
	⑰										
	⑱										
	⑲										
	⑳										
	㉑										
	㉒										
	㉓										
	㉔										
	㉕										
	㉖										
	㉗										
	㉘										
	㉙										
	㉚										
	㉛										
	㉜										
	㉝										
	㉞										
	㉟										
	㊱										
	㊲										
	㊳										
	㊴										
	㊵										
	㊶										
	㊷										
	㊸										
	㊹										
	㊺										
	㊻										
	㊼										
	㊽										
	㊾										
	㊿										
	㉿										
	㊰										
	㊱										
	㊲										
	㊳										
	㊴										
	㊵										
	㊶										
	㊷										
	㊸										
	㊹										
	㊺										
	㊻										
	㊼										
	㊽										
	㊾										
	㊿										
	㉿										
	㊰										
	㊱										
	㊲										
	㊳										
	㊴										
	㊵										
	㊶										
	㊷										
	㊸										
	㊹										
	㊺										
	㊻										
	㊼										
	㊽										
	㊾										
	㊿										
	㉿										
	㊰										
	㊱										
	㊲										
	㊳										
	㊴										
	㊵										
	㊶										
	㊷										
	㊸										
	㊹										
	㊺										
	㊻										
	㊼										
	㊽										
	㊾										
	㊿										
	㉿										
	㊰										
	㊱										
	㊲										
	㊳										
	㊴										
	㊵										
	㊶										
	㊷										
	㊸										
	㊹										
	㊺										
	㊻										
	㊼										
	㊽										
	㊾										
	㊿										
	㉿										
	㊰										
	㊱										
	㊲										
	㊳										
	㊴										
	㊵										
	㊶										
	㊷										
	㊸										
	㊹										
	㊺										
	㊻										
	㊼										
	㊽										
	㊾										
	㊿										
	㉿										
	㊰										
	㊱										
	㊲										
	㊳										
	㊴										
	㊵										
	㊶										
	㊷										
	㊸										
	㊹										
	㊺										
	㊻										
	㊼										
	㊽										
	㊾										
	㊿										
	㉿										
	㊰										
	㊱										
	㊲										
	㊳										
	㊴										
	㊵										
	㊶										
	㊷										
	㊸										
	㊹										
	㊺										
	㊻										
	㊼										
	㊽										
	㊾										
	㊿										
	㉿										
	㊰										
	㊱										
	㊲										
	㊳										
	㊴										
	㊵										
	㊶										
	㊷										
	㊸										
	㊹										
	㊺										
	㊻										
	㊼										
	㊽										
	㊾										
	㊿										
	㉿										
	㊰										
	㊱										
	㊲										
	㊳										
	㊴										
	㊵										
	㊶										
	㊷										
	㊸										
	㊹										
	㊺										
	㊻										
	㊼										
	㊽										
	㊾										
	㊿										
	㉿										
	㊰										
	㊱										
	㊲										
	㊳										
	㊴										
	㊵										
	㊶										
	㊷										
	㊸										
	㊹										
	㊺										
	㊻										
	㊼										
	㊽										
	㊾										
	㊿										
	㉿									</	

【解説】

1 蒼沼洋人『光の粒が舞いあがる』（PHP研究所）から出題

しました。自分を変えたいと思いつながら、波風をたてないために自らを押し殺して日々を過ごしている「わたし」と、ボクシングに打ち込む少女が対照的に描かれています。

問一 B1 理由 比較

——線①の直後から、休み時間が「一番しんどい」理由が書かれています。「…杏が…言葉を吐きだすたび、みんなの大きな相槌がはじまる。…よくやるなあこの子たち、とあきれているくせに、人一倍大げさに、全力でうなずいているのはわたしだ」とあります。「はみださないように、目立たないように。グループにいるためには、見えないルールがたくさんある」、そのことを「つかれる」と思いつながらも、「興味がなくてもあるふりをして…探りを入れ」るほど、「わたし」はグループにしがみついています。周りの子たちのことにあきれながらも、グループにいるために、数々の無理をしている自分をさげすんでいることが分かります。よって答えはウです。ア「杏がおしつけてくるルール」の部分が不適切です。イ「同じグループだと思われることを、恥ずかしく思っている」とは本文中に示されています。またア・イともに、無理をしてグループにしがみついている自分のことが嫌いになっていることに触れられていません。エ「他人のプライベート…を探る自分があさましく」の部分が不適切です。

問二

1 B1 具体化 比較

杏のこわさは、——線②直後の二段落に具体的に書かれています。どこからか仕入れてきた、いろいろな人の「家庭事情」や「驚くような裏話」を、「雑談のなかの絶妙なタイミングで、上手にネタにして笑いをとる」とあります。杏は、他人のプライベートな話を、自分も話を聞いた人も悪者に思わせないような口ぶりで暴露するのです。ですから答えはアです。イ「わたし」はびくびくしたでしょうが、杏が「野村さんは歯医者であることを…におわせ」たとはここからは読み取れません。ウ「孤立させるために」、エ「その友達の秘密…を全部把握」の部分が不適切です。

2 B1 置換

——線③の六行前に「もし、うちのお母さんのことを杏が知ったらどうなるんだろう。考えただけで、背筋が冷えた」という、「わたし」の家の事情を知られたらと不安になっていることがわかる表現があります。その気持ちがあらわれた「しぐさ」はこの直前の「笑いながら、ぎゅっと自分の腕をつかむ」という動作です。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問三 B2 理由 推論

「歩道橋に向かった」のは「あの子の練習」を見るためです。「あの子の練習を見よう」と思ったのはなぜでしょう。「わたし」が練習を見てどのような気持ちになるかを読み取ります。練習

のシーンが続き、その最後に（中略の前）「あの鋭い動きが：わたしの胸（むね）のややもやを全部叩きつぶしてくれたらいいのに」とあります。また、次の日の放課後、練習を見に行ったときの感想が——線⑩以降の段落に書かれています。「いつもなら：ネガティブな気持ちは遠のいていく。でも：胸の奥（おく）で大きくふくらんだもやもやは、もうどうにも止まらなかった」とあります。以上のことから、「わたし」は、①あの子の練習している姿を見れば、②「ネガティブな気持ち」を遠のけることができる（前向きな気持ちになれる・気持ちのややもやが晴れる）と思っているから、「歩道橋に向かった」のだとわかります。理由を聞かれていますから、文末は「～から。」にしましょう。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問四

B1 関係づけ 比較

文の前後を読んで空欄に言葉をあてはめます。④ 歩道橋に向かえば、ネガティブな気持ちを遠のけられる、と「わたし」が思っていることから、「あの子」はいつもジムで練習していると考えられます。ですから、ここには「やっぱり」が入ります。⑤ 格闘技とはいえないまでも、だれかと対戦するという意味で、剣道や空手を出してきているのでしょうから、ここには「せいぜい」があてはまります。⑥ 直前に「格闘技に興味はなかった」とあり、直後に「暴力が苦手だ」とあります。まずもって、という意味でしょうから、ここには「そもそも」が入ります。

問五

B1 理由 具体化

「暴力が苦手」なのは、過去に両親のひどい夫婦喧嘩を見てしまったからです。「わたし」が「暴力が苦手」であることを語った——線⑦の三文後から、「いつか見た光景が：」と過去を思い出しています。その光景が具体的に書かれているのは、「まだ幼稚園に：」の段落です。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問六

B1 具体化 比較

——線⑧の直前に「え？ いつから？」とあるように、「わたし」は長崎（ながさき）くん（ゆうは）と柚葉（ゆは）がつきあいそうとも思っていないことがわかります。今日の前で起きていることが「現実」とは思えなかった、ということですから、答えはエです。ア「仲良くしているのが奇妙」、ウ「幻想的」とは読み取れません。イツきあっていることを言っていないからといって「裏切っていた」は言い過ぎです。

問七

B1 理由 比較

——線⑨の直前の「自分がショックを受けてるなんて思いたくなくて」とは、柚葉と長崎くんのことでおちこんでいる自分の気持ちを認めたくない、ということです。その気持ちを直視したくない、忘れた（わす）いから楽しい（たの）ふりを一生懸命（いっしょうけんめい）していたのでしよう。ですから答えはウです。ア「何もかもどうでもよくなった」、イ「仲を深める」「裏切った」、エ「グループの：気を遣わせてはいけない」などの部分が本文から読み取れません。

問八

B1 具体化 比較

母親との関係、柚葉たちとの関係でやり場のない気持ちを「わたし」はかかえています。そんな中でも空は美しく晴れ渡っている、ということを描くことで、「よろよろ」と歩く「わたし」の「やり場のない気持ち」が対比構造によって際立ってきます。ですから、答えはアです。イ「憎しみにとらわれている」「みにくさ」「ウ「これからが明るいものになることを示唆」、エ「自分のことを思ってくれる人がいない孤独な『わたし』を表現」の部分が本文の内容とあいません。エ「わたし」の抱えている孤独は、「自分のことを思ってくれる人がいない」というより、家庭の事情に翻弄^{ほんろう}されているうちに、小学校から築いてきた友人関係が、いつのまにか変質してしまっていたことにあります。だからこそやるせないのです。

問九

B1 理由 比較

「ここ」は「わたし」がいる場所、「向こう」は女の子が練習している場所です。その女の子と「わたし」の違いは何かというと、女の子は「好きなことに全力で打ちこめる人」なのに対し、「わたし」はグループの一員であるために自分の気持ちをいつわり、周りの目を気にしながら行動する人です。「わたし」は自分がそういう人間であることに自覚的ですから、「このこと向こうは別世界だ」と感じたのでしょう。ア「悩みなど何ひとつなさそう」、ウ「なんの目標もなく」「『わたし』のような人間がいるなど信じられない」、エ「社会的格差」などの表現が本文の内容とあいません。

問十

B1 具体化 比較

——線⑫の直前の段落に、「…光が、金色の雨のように…降りそそぐ…あまりにもまぶしくて…ただただ、きれいで」とあることから、「わたし」は、「好きなことに全力で打ちこめる人」の美しさに感動しているのだとわかります。一方で、それは「わたし」には永遠に届かないものだとも痛感し、傷ついていきます。いろいろな気持ちがあふれて、涙がとまらなくなったのだと考えられますから、答えはエです。アは「うれしい」という一つの気持ちしか示されていません。イは感情の制御ができていない場面ですから「反省し」という表現はあいません。また「好きなことをやろうと決心」もこの部分からは読み取れません。ウは「自分があわれ」とありますが、「わたし」は自分のことをあわれんだりしていません。また、「同年代の女の子はみんな」という表現も不適切ですし、女の子の姿に感動しているという表現もないので不十分です。

2

森博嗣『悲観する力』（幻冬舎）からの出題です。人間は「自然の一部」であるがゆえに、ミスがでます。起こりうる事象を想像し、それをどう回避し、回避できない場合はどう被害を最小限にするか…ということ、人間は「機械による制御、あるいは支援」を選びました。そのおかげで、有事に人間は「冷静」でいられ、「未知の障害に備えることに注力」できるようになっています。

人間の大きい「悲観」から生まれたAIが発達すれば、それすらも機械に頼ればいいということになります。今、現代人のほとんどは、自分で検討・判断することを放棄し、マニュアル通りに働き、休日までもメディアに踊らされその通りに動くことに何の疑問も持たない「機械化された人間」になっ

ています。筆者は人間がAIに支配されるのではなく、無駄なものとして滅ぼされることになるだろうと「悲観」しています。

問一 B1 理由 比較

冒頭に、「これ（防災訓練）は、災害が発生したときにパニックにならない冷静さを養うため」とあります。また、それは「具体的に何をするのか、どこへどう避難するのか、といったことは二の次にされている」ともありますので、ア「おそろしさを人々に知らしめる」、ウ「災害が起きたとき、何をすべきか、どの道で逃げるのかなどを細かく定め周知しておく」、エ「マニュアルを守るこの大切さを伝えるため」といった表現があるため不適切です。ここで言う「悲観的に想定」というのは、災害というものは必ず起きると想定するということです。そうすることで災害が起こることを人々に意識させ、「災害が発生したときにパニックにならない冷静さを養う」っているのだと考えられます。

問二 B1 具体化 関係づけ

——線②の二文後から理由が示されています。「予想もしない：計器の故障などは、自然現象と捉える方が理解しやすい：さらに、人間が判断を誤ったり、勘違いした結果発生する事故（これが人災）もあるが、これもまた人間が自然の一部だからである」とあります。「人間が判断を誤ったり、勘違い」したり、ということとその次の段落で「自然である人間のミス」と言い換えています。この部分から決められた字数で言葉を抜き出しましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とし

ます。

問三 B1 具体化 比較

——線③を含む一文は、「これがなかったら、不可能なもの是非常に多い」とあり、直後の文で、「たとえば、人間ができたことも、コンピュータのおかげである。」と具体的に補足説明をしています。ですから、「これ」というのはコンピュータだと考えられます。

問四 B1 具体化 関係づけ

設問に「機械は人間とは違い、どうすることが可能なのですか」とあるので、機械ができて、人間ができないことを読み取りましょう。——線④の次の段落に「どんなに冷静で判断力がある監視役がいたとしても、咄嗟に多数の対応ができるわけではない」とあります。機械は「起こりうる事象を想像し：どうすれば被害を最小限にできるか、という判断をあらかじめしている」ので、それが可能なのです。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五 B1 具体化 比較

問一でも触れましたが、本文において、筆者は「悲観」をマインナスの意味で使っていません。何とかなると楽観するのではなく、備えるために、念には念を入れて最悪の事象をふくめたあらゆる事象を想定することを「悲観」と言っているのです。

——線⑤直後にもあるように、「起こりうる事象を想像し：どうすれば被害を最小限にできるか、という判断をあらかじめし

て」とあります。ですから答えはウです。

問六 B1 関係づけ

⑥を含む一文は、「これらのシステム（コンピュータによる制御＝機械に任せる）があるから、人間は『⑥』でいられる」という一文です。読み進めると、二段落後に「機械に任せることで、人間は理想的な『冷静』を手に入れることができます：未知の障害に備えることに注力できる」という似た表現があります。以上のことから、ここには「冷静」という言葉があてはまります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七 B1 具体化 比較

筆者は、本文中で「楽観」という言葉をプラスの意味で使ってはいません。「つきつめてものを考えていない」「甘く考えている」という意味で使っています。——線⑦の二文後から読みましょう。筆者は、「人間よりも機械の方が優れている」から、「機械に仕事を委ね」てきたという歴史があるのであって、「AIが人間に代わって仕事をする」ということが実現しようとしている現代は、来るべくしてきたものだとしてらえています。——線⑦のように「AIが人間の仕事を奪うと恐れ」たり、「仕事は人間がするもの」と考えたりすること自体がかなり遅れている考えだと思っています。よって、答えはイです。

問八 B1 理由 関係づけ

——線⑧を含む段落を読みましょう。そこには、マニュアル

とはどういうものか、そして、「マニュアル化」することで「均質なサービス」が実現することが書かれています。リード文に従い、適切な言葉を書き抜きましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問九 B1 具体化 関係づけ

——線⑨を含む段落には、「現代人の多くは、既に機械化された人間」だと言える理由が具体的に書かれています。——線⑨はその理由に当たる部分です。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問十 B1 具体化 比較

——線⑩を含む段落を読みましょう。「AIが社会を支配し、人間を排除する」と考えること自体が「楽観」だ、甘い考えだと筆者は言っています。そして、——線⑩の直後で「もし、それで人間が減びるなら、それで良い……というのが……僕の悲観的な想像である」とも言っています。筆者は、「エネルギー的に無駄が多すぎる」人間など、「合理的に判断する」AIは支配などせず、減ぼすだけだ、と考えているのです。ですから答えはウです。ア・イ・エはどれもAIと人間が共存しており、AIがつくるだろう世界を楽観的に想像したものです。

3

A1 知識

四字熟語の問題です。一語の中に同じ漢字が入るものや反対の意味の漢字が入るもの、漢数字が入るものはよく出題されます。

①以心伝心：口に出さなくても、相手に考えや気持ちが伝わること。

②自画自賛：（自分で描いた絵に自分で言葉を書き入れることから）自分で自分をほめること。

③不平不満：自分の希望通りにならず物足りないこと。またそれを述べる言葉。

④半信半疑：半分信じ、半分疑うこと。本当かどうか迷うこと。

⑤共存共栄：違った性質や考え方の人がともに助け合って生きること。

4

A2 知識 比較

敬語の問題です。その動作をしているのが相手なら尊敬語、自分（自分側）なら謙譲語を使います。

①「行く」のは話者である「わたし」でしょうから、謙譲語の「うかがう」を使います。

②「のむ」のは話者である「わたし」でしょうから、謙譲語の「いただく」を使います。

③「すわる」のは先生ですから、尊敬語の「おかけになる」を使います。

④「言う」のは話者である「わたし」でしょうから、謙譲語の「申し上げます」を使います。

⑤「見せる」のは話者である「わたし」でしょうから、謙譲語の「お目にかけます」を使います。